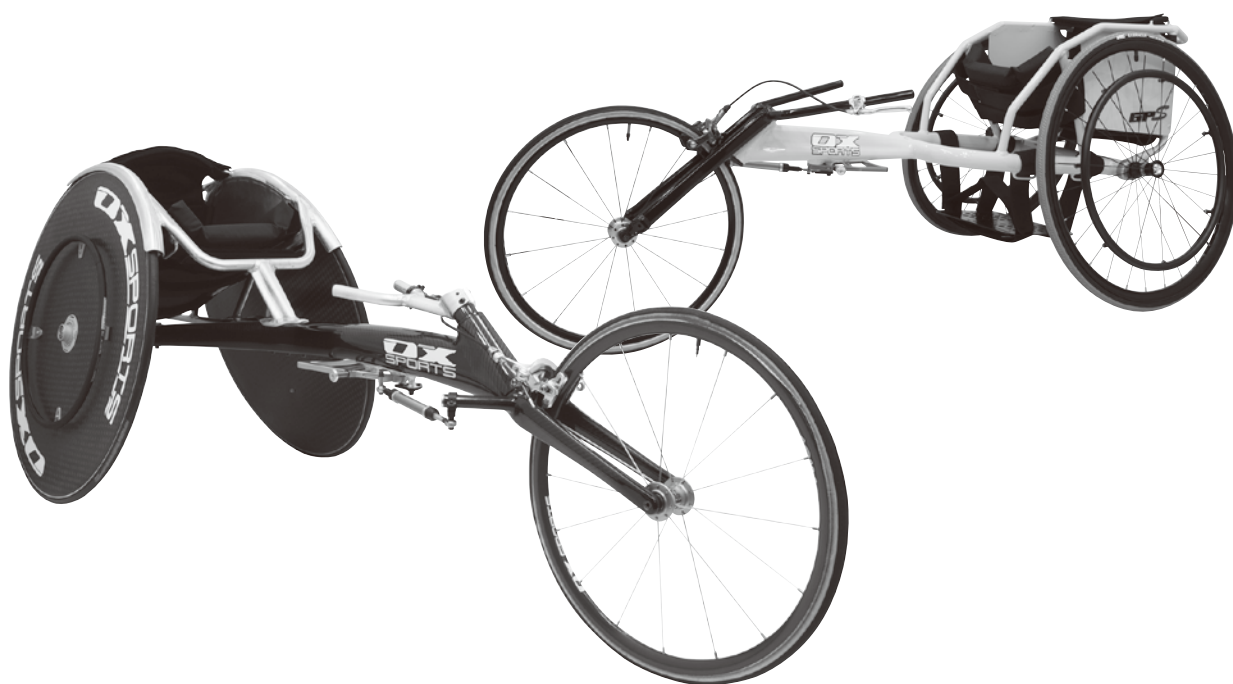


GPX / GP-S

ジーピーエックス / ジーピーエス

サービスマニュアル

安全にご使用いただくために



警告

- *ご使用前に、本書を最後までよくお読みください。
- *お子様が使用される場合は、保護者の方が本書をよくお読みになり、万全なご指導をお願いします。
- *この車いすの全ての部品は消耗品です。日頃の点検を怠ると、思わぬ事故や車いすの破損のおそれがあります。

はじめに

この度はオーエックス製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

この本書には、お買い上げいただいた製品が十分にその性能・機能を発揮できるように、また、安全にご使用いただけるように、正しい取扱い方法や点検・整備などについて必要な事柄を記載してあります。

車いすの取扱いを十分ご存じの方も、この製品独自の装備・取扱いがありますので、必ずご使用前に本書をよくお読みになっていただき、正しく、安全で、快適にご使用ください。

また、お子様が使用される場合は、保護者の方と一緒に本書をお読みいただき、保護者の方の万全なご指導をお願いします。

なお、本書は紛失しないように大切に保管してください。

* 本書を紛失してしまった場合は再発行（有料）いたしますので販売店、または下記までご連絡ください。

* お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に保管してください。

* 落丁・乱丁がありましたらお取替えいたしますので、下記までご連絡ください。

株式会社 オーエックスエンジニアリング 営業部 お客様ご相談窓口
〒265-0043 千葉県若葉区中田町 2186-1
TEL043-228-0777 / FAX043-228-3334

<保証について>

お買い上げいただきました製品は、競技専用車いすとして製造された特殊車いすです。お買い上げ後の保証については、対象となりませんのでご了承ください。また、あなたが使用状態に合わせて、日頃の点検、整備を行って、常に最良の調子を保つように心掛けてください。

<シリアルナンバー表示位置>

アフターサービスについてのご相談に対しの確な判断、処置をするためシリアルナンバーを正確にご連絡ください。なお、シリアルナンバーはメインパイプ後方に貼られています。

あなたの車いすのシリアルナンバー



シリアルナンバーをご記入ください。

* 仕様変更や各機種共通仕様などにより図や内容が一部実物と異なる場合がありますのでご了承ください。

<付属品>

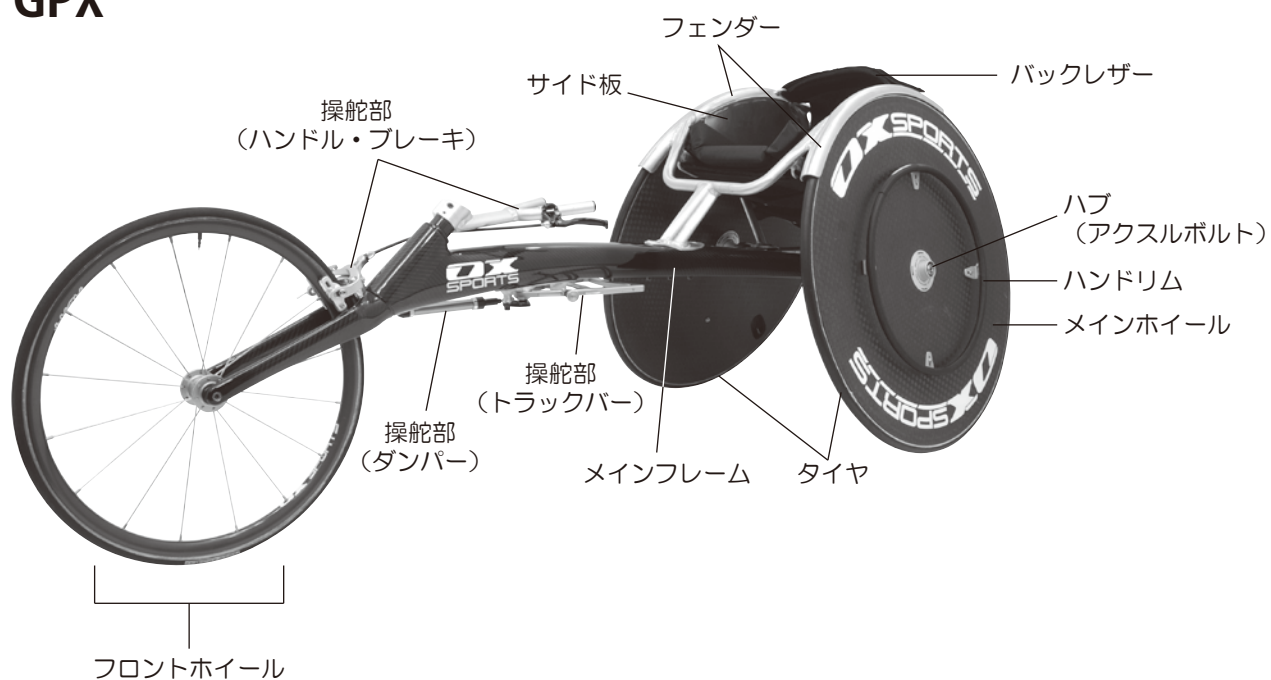
付属品は次の通りですのでご確認ください。



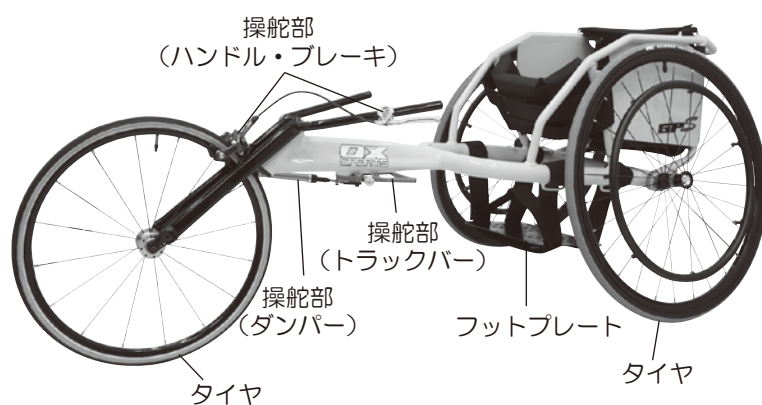
本書

<各部の名称> (仕様により、下の写真とは内容が異なります。)

GPX



GP-S



GP-S: ウイリーバー※オプション

はじめに

はじめに

保証について	1
シリアルナンバー表示位置	1
付 属 品	2
各 部 の 名 称	2
も く じ	3

安全上のご注意

絵表示について	4
警告	5
注意	8

1 章 総説

基本的な操作方法	11
お手入れについて	11
保管について	11
調整・点検について	11
調整可能な箇所	11

2 章 乗車位置

レザークラスの調整・点検

バックレザークラスの張り調整	13
バックレザークラスの着脱	13
ヒップレザークラスの調整	14
ニーレザークラスの調整	15
ニーレザークラスの着脱	15

シートフレームの点検(CARBON GPX)

シートフレームの点検	16
------------	----

3 章 回転部

メインホイールまわりの調整・点検

メインホイールの外し方	19
メインホイールの取付け方	19
メインホイールの点検	19
ホイールの取外し	20
ホイールの取付け	20
ホイールの点検	20

フロントホイールの調整・点検

フロントホイールの外し方	21
フロントホイールの取付け方	21
フロントホイールの点検	21

その他の点検

タイヤの点検	22
ホイール・ハンドリムの点検	22

4 章 操舵部

トラックバーのやさしい調整・点検

トラックバーの使用法	25
トラックバーの調整(直進)・点検	25
トラックバーの調整(コーナー)・点検	25

トラックバー及びダンパーの調整・点検

トラックバーの調整・点検	27
ダンパー(直進)の調整・点検	27
ダンパーのガタ修正	27

ブレーキの調整・点検

ブレーキの微調整	29
ブレーキの調整	29
ブレーキシューの調整	29
ブレーキの片効き修正	29

ハンドルの修正

ガタ修正(カーボンフォーク装着車)	31
-------------------	----

アクセサリ・アフターサービス

フットボードの調整・点検

フットボードの調整	33
フットボードの着脱	33

その他の着脱・点検

ハンドリムの着脱方法	34
ワイリーバーの着脱方法	34

トーアングルゲージを使った点検・修正

トー角の点検	35
トー角の修正	35

お客様ご相談窓口のご案内

お客様ご相談窓口	36
アフターサービスの実施	36
パンクでお急ぎの場合には	36

安全上のご注意

<絵表示について>

本書では、この製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は、次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を指しています。



この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が想定される内容を指しています。



この表示は、増し締め箇所を示しています。
定期的に、緩みがないか点検・増し締めをして下さい。
※工具は付属されていません。



この表示は、グリスを塗布する箇所を指しています。
定期的（1ヶ月に1度が目安）に、古いグリスを拭取り、新たにグリスを塗布して下さい。



この表示の示す箇所には、絶対に潤滑油などの油分は塗布してはいけません。
万が一油分などが付着した場合は、乾いた布できれいにふき取ってください。



陸上競技以外の目的に使用しない。

事故や転倒などのおそれがあります。また、車いすを損傷させるおそれがあります。
この製品は、陸上競技専用です。補助動力装置を付けて使用しないでください。

壊れたままや異常がある時は使用しない。

事故や転倒などのおそれがあります。
故障や異常を見つけたら、車いすの使用をやめ販売店にご相談ください。

改造・分解しない。

改造すると安全性が低下して、部品が破損したり、外れたり、車いすを損傷させたりし、事故や転倒などのおそれがあります。
改造・分解は行わず、整備が必要な時は販売店にご相談ください。

調整作業に不安がある時は調整しない。

部品が破損したり、外れたり、車いすを損傷させて、事故や転倒などのおそれがあります。
不安な時は販売店にご相談ください。

不十分な調整状態で使用しない。

身体に無理をかけたり、褥瘡^{しよくそう}などになるおそれがあります。
身体の状態に合わせて、正しい乗車姿勢が保て、麻痺部位と車いすの固い部分(フレームなど)が接触しないように調整してください。

ホイールの装着後、固定を確認せずに使用しない。(P.18)

ホイールが外れて転倒などのおそれがあります。
必ず乗る前に点検してください。

高温になる場所(炎天下の自動車内、暖房器具の近くなど)に置かない。

高温になり、火災ややけどなどのおそれがあり、また、パンクなど部品を著しく傷めるおそれがあります。

車いすに巻き込まれやすい服装は避ける。

ホイールやキャスターなどに巻き込まれ、事故や転倒などのおそれがあります。

他の乗り物につかまりながらの移動はしない。

車いすを損傷させたり転倒、転落などのおそれがあります。

車いすを踏み台にしたり、車いすの上で立ち上がったりしない。

バランスを崩し転倒、転落のおそれがあります。また、車いすが損傷するおそれがあります。

素手で車いすを使用しない。

GPXやオプションのハンドリムには、特殊なコーティングを施しています。素手で使用するとやけどやケガをするおそれがありますので、専用のグローブなど、手や手首を保護出来る物を付けてから使用してください。



フットボードに乗ったり、立ったりしない。

転倒や転落などのおそれがあります。また、車いすが損傷します。

リム、ブレーキ、タイヤ、ハンドリムにワックスなどの油分を付けない。

ワックスなどの油分が付くと、タイヤやグリップが滑り、十分なスピード調整ができなくなり、事故や衝突、転倒などのおそれがあります。

ワックスなどの油分が付いた時には、十分に脱脂してください。

雨などでハンドリムが水に濡れた時は、スピードを出さない。

リム(ブレーキシュー接触面)やハンドリムが滑り、十分なスピード調整ができなくなり、事故や衝突、転倒などのおそれがあります。

水分が付いた時には、乾いた布で十分拭き取ってください。

下り坂ではスピードを出さない。

衝突や転倒などの事故をおこしやすく危険です。

ブレーキでスピード調整してください。

急坂などの自操は避ける。

事故や転倒のおそれがあります。

介助してもらいましょう。

悪路・荒地には入らない。

事故や転倒などのおそれがあります。また、車いすを損傷させるおそれがあります。この製品は、平坦地専用です。山岳、荒地、砂地、河原、水中、泥地などのオフロードでは使用しないでください。

凹凸の激しいところ(踏切、歩道などの段差や溝)は自操を避ける。

車いすを損傷させ、事故や転倒などのおそれがあります。

段差の飛び降りなど、乱暴・無理な取扱いをしない。

車いすを損傷させ、事故や転倒などのおそれがあります。

ペットを連れて使用しない。

ペットに車いすごと引きずられ、事故や転倒などのおそれがあります。

滑りやすいところは避ける。

降雪時、凍結路、工事用の鉄板やぬかるみ、軌道敷などはスリップしやすく事故や転倒などのおそれがあります。

傘をさして使用しない。

レインコート・帽子などを使用してください。また、グリップが濡れて滑りやすくなりますので注意してください。



運動機能が低下するもの(アルコールや風邪薬など)を摂取した時は自操しない。

事故や転倒、転落などのおそれがあります。

未使用時の車いすに乳幼児を近づけない。

車いすを倒して下敷きになったり、ケガのおそれがあります。

ウイリー(キャスター上げ)は十分熟練するまで一人でやらない。

転倒のおそれがあります。

走行中の回転部(キャスター、タイヤ、スポークなど)に手を触れない。

手を巻き込まれるおそれがあります。

エスカレーターは使用しない。

事故や転倒、転落のおそれがあります。

点検、整備をする。

点検、整備を怠ると、故障や事故などのおそれがあります。

使用前、使用後の点検・整備および使用頻度に応じた各部の点検・整備を行ってください。

車いすをこぎだす時、また走行中は周囲に気を付ける。

子供などが車いすの回転部、可動部に手などをはさまれるおそれがあります。

夜間走行は避ける。

事故に遭うおそれがあります。

明るい道の利用、視認性の高い服装・機器などで自衛しましょう。

移乗時・停車時・未使用時は、車いすが動かないように固定(ブレーキ)する。

車いすが動き出して落下・転倒・転落などのおそれがあります。

少しの間の停車、停止でも必ず車いすが動かないように固定(ブレーキ)してください。

身体の状態に適したクッションを使用する。

褥瘡^{じょそう}になるおそれがあります。身体の状態に合わせて、正しい乗車姿勢が保て、麻痺部位と車いすの固い部分(フレームなど)が接触しないように使用してください。

上半身の不安定な方はベルトなどを使用する。

転落や転倒のおそれがあります。

オプションのベルト類などを使用して、身体を安定させてください。

本製品に乗ったままで、持ち上げられない。

車いすが破損したり、介助者や使用者がバランスを崩し落下や転倒・転落のおそれがあります。持ち上げられることに、耐えられる車いすに乗り換えてください。



素足で使用しない。

ケガのおそれがあります。
靴下をはき、底のある履き物を履いて使用してください。

タイヤをにぎって走行しない。

事故や転倒、転落のおそれがあります。
必ずハンドリムを使用してください。

屋外に放置しない。

気象や気温の変化により、車いすが著しく劣化します。
必ず屋内に保管してください。

面ファスナーは、確実に貼り付ける。

固定力が低下して、調整状態が変わります。

面ファスナーに付着した糸くずなどは取除く。

固定力が低下して、調整状態が変わります。

本製品のアルミ材質の部分に、汗が付いてしまった時はしっかりと拭き取る。(P.11)

アルミが酸化して、強度が低下します。
タオル等を濡らし、しっかりと拭き取ってください。

1 章 総説

この章では、基本的な操作と、お手入れや保管方法及び調整・点検について説明しています。

基本的な操作方法

お手入れについて

保管について

調整・点検について

調整可能な箇所



基本的な操作方法

- 本製品のシート部にクッションを敷き、クッションに着座してください。
- 足はニーレザーに載せるか、フットボード（オプション）に乗せてください。
- 走行する時は、ハンドリムを手動で回転させて走行します。
- 停止する時は、ブレーキレバーを手でにぎり、ブレーキを掛けて停止します。
- 無塗装の本製品を使用されている方は、メインパイプ等アルミ材質の部分に汗が付かない様な対策を施して使用してください。（ビニールテープや防水シート等を巻く）

お手入れについて

- ご使用後に毎回清掃することをお勧めします。
- こまめに清掃することにより、異常を早期に発見することにもつながります。

保管について

- 必ず屋内で保管してください。
- ご使用後は、タイヤの空気を抜いて接地させないようにして、保管してください。
- 再びご使用の際は点検・整備をしてください。
- 無塗装の本製品を使用されている方は、メインパイプ等アルミ材質の部分に汗が付いた場合は、タオル等を濡らして拭き取ってください。

調整・点検について

- 本製品は、各所に調整機構がありますのであなたの状態、プレイスタイルなどに合わせて各所の調整を行ってください。
- 調整作業上メインホイールを外した方が、作業しやすい場合がありますので、作業に合わせてメインホイールの着脱を行ってください。
- 最適な姿勢で使用できるように各部の調整を行ってください。（『2章 乗車位置』参照）
- 調整作業に不安がある場合は、販売店に依頼してください。
- 本製品は競技用車いすです。使用前に毎回点検を行ってください。
- 点検を怠ると思わぬ事故につながります。

調整可能な箇所

- 本製品には、次の箇所に調整機構があります。

- ☐ シートの張り調整（バックレザー・ヒップレザー・ニーレザー）
- ☐ 車軸（トー角）
- ☐ トラックバー（直進・トラックバーでの蛇角）
- ☐ ダンパー（直進）
- ☐ フットプレート（高さ）：GP-S・オプション
- ☐ ハンドリム（リムと間隔調整）：オプション・アクセサリー

※市販の工具で調整可能ですが、車いすを損傷させると事故や転倒などのおそれがあります。不安な時は販売店にご相談ください。

2 章 乗車位置

この章では、乗車位置に関する調整について説明しています。

レザー類の調整・点検



ヒップレザー (P.14)



ニーレザー (P.15)

レザー類の調整・点検

＜バックレザーの張り調整＞【図 1-1】【図 1-2】【図 1-3】

- 1) 左右の面ファスナーA・Bを剥がす。
- 2) 左右の①ネジを緩める。
- 3) ヒップレザー裏側のバックレザーを剥がす。
- 4) 最適な張りにして左右の面ファスナーA・Bとシートレザー裏側のバックレザーを貼り付ける。
- 5) 左右の①ネジを締める。

⚠注意

バックレザーの全面で背中を受けるように調整してください。

* 背中や腰に褥瘡等ができるおそれがあります。

⚠注意

面ファスナーは確実に貼り付ける。

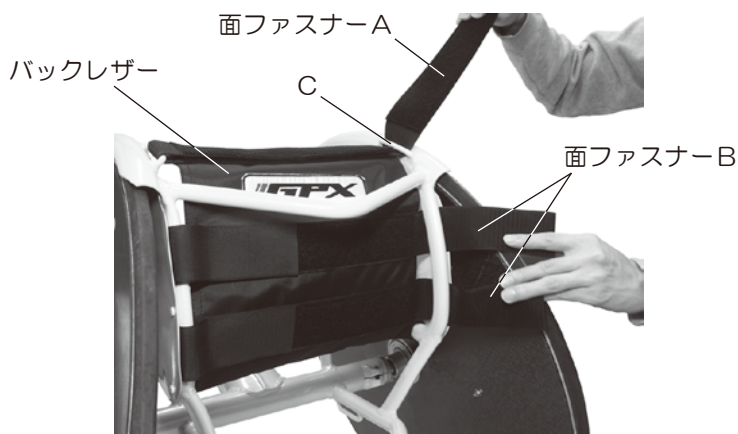
* 固定力が低下して調整状態が変わります。

⚠注意

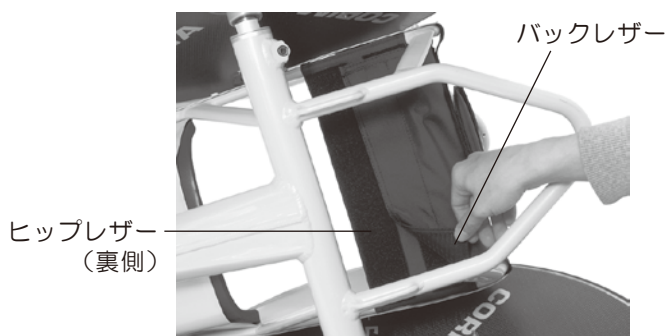
面ファスナーに付着した糸くずなどは取除く。

* 固定力が低下して調整状態が変わります。

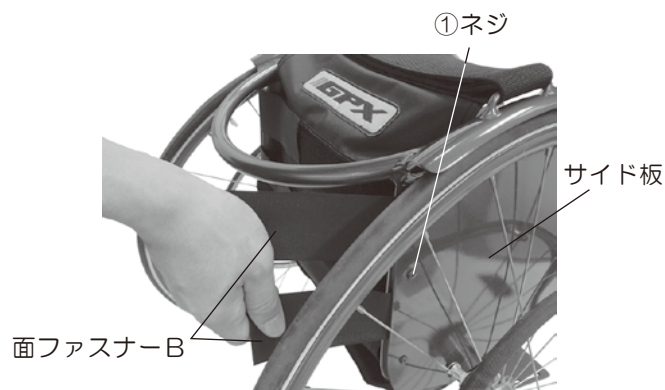
①ネジ締付けトルク 2N・m



【図1-1】



【図1-2】



【図1-3】

レザー類の調整・点検

＜ヒップレザーの調整＞【図 1-4】【図 1-5】

- 1) ヒップレザー裏側のバックレザーを剥がす。
- 2) ヒップレザー着座側の面ファスナーを剥がす。
- 3) ヒップレザーを最適な張りに調整して面ファスナーを貼り付ける。
- 4) ヒップレザー裏側のバックレザーを貼り付ける。

バックレザー



【図1-4】

ヒップレザー
(裏側)

ヒップレザー
(着座側)



【図1-5】

⚠警告

ヒップレザーを緩めすぎない。

* フレームやパイプなど、固い部分に身体が触れ褥瘡などになるおそれがあります。

* 取付け及び調整後や使用前に、必ず点検をしてください。

⚠警告

ヒップレザーがたるんできたら交換する。

* フレームなどに接触して褥瘡などになるおそれがあります。

* 調整後は必ず乗車した状態でヒップレザーがフレームなどに接触していないか確認してください。

⚠注意

面ファスナーは確実に貼り付ける。

* 固定力が低下して調整状態が変わります。

⚠注意

面ファスナーに付着した糸くずなどは取除く。

* 固定力が低下して調整状態が変わります。

レザー類の調整・点検

＜ニーレザーの調整＞【図 1-6】【図 1-7】

- 1) ニーレザー裏側の左右のベルトを剥がす。
- 2) 最適な張りに調整する。
- 3) ニーレザー裏側の左右のベルトを貼り付ける。

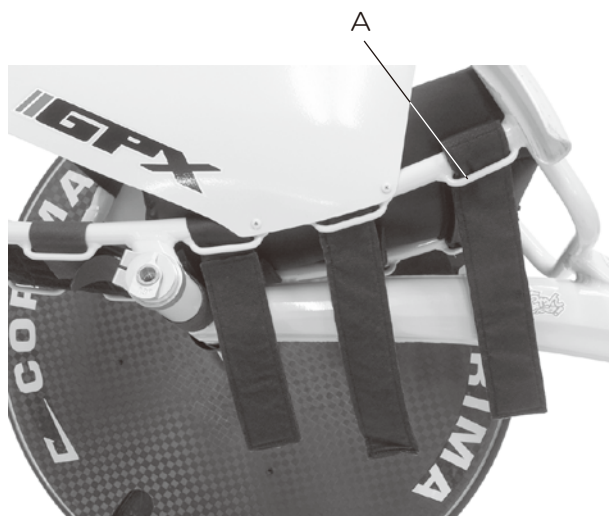
＜ニーレザーの着脱＞【図 1-6】【図 1-7】

- 1) ニーレザー裏側の左右のベルトを剥がす。
- 2) ニーレザーを引き抜く。

※ニーレザーを取付ける場合は、逆の手順で取付けます。取付けの際、最前のベルトは必ず「A」を通してパイプに巻き付け、面ファスナーを貼り付けてください。



【図 1-6】



【図 1-7】

⚠警告

取付けの際、最前のベルトは必ず「A」を通す。

*ニーレザーが後方にずれ、転倒、転落のおそれがあります。

⚠注意

面ファスナーは確実に貼り付ける。

*固定力が低下して調整状態が変わります。

⚠注意

面ファスナーに付着した糸くずなどは取除く。

*固定力が低下して調整状態が変わります。

シートフレームの点検（CARBON GPX）

＜シートフレームの点検＞【図 1-8】

○1ヶ月に1度を目安に、フレームの底面の前3箇所、後4箇所の固定ボルトが緩んでいないか、確認してください。また、接続部から異音が出るときなどは、点検・増し締めを行ってください。

固定ボルト締付けトルク 4.5N・m

⚠注意

ボルトの締め忘れが無い
か、必ず確認する。

*シートフレームとタイヤが接
触し、破損や事故のおそれ
があります。

⚠注意

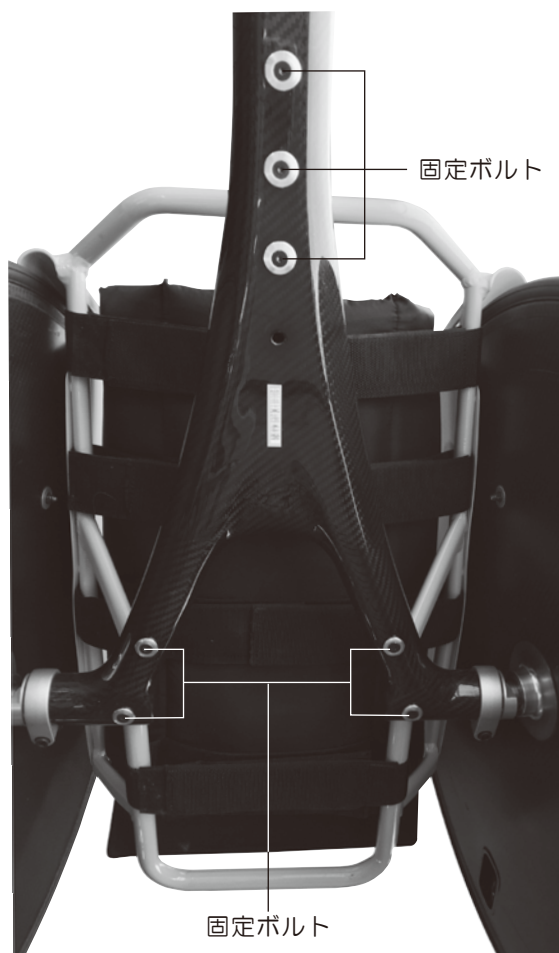
ガタがある状態で走行
しない。

*フレームの破損や、事故の
おそれがあります。

⚠注意

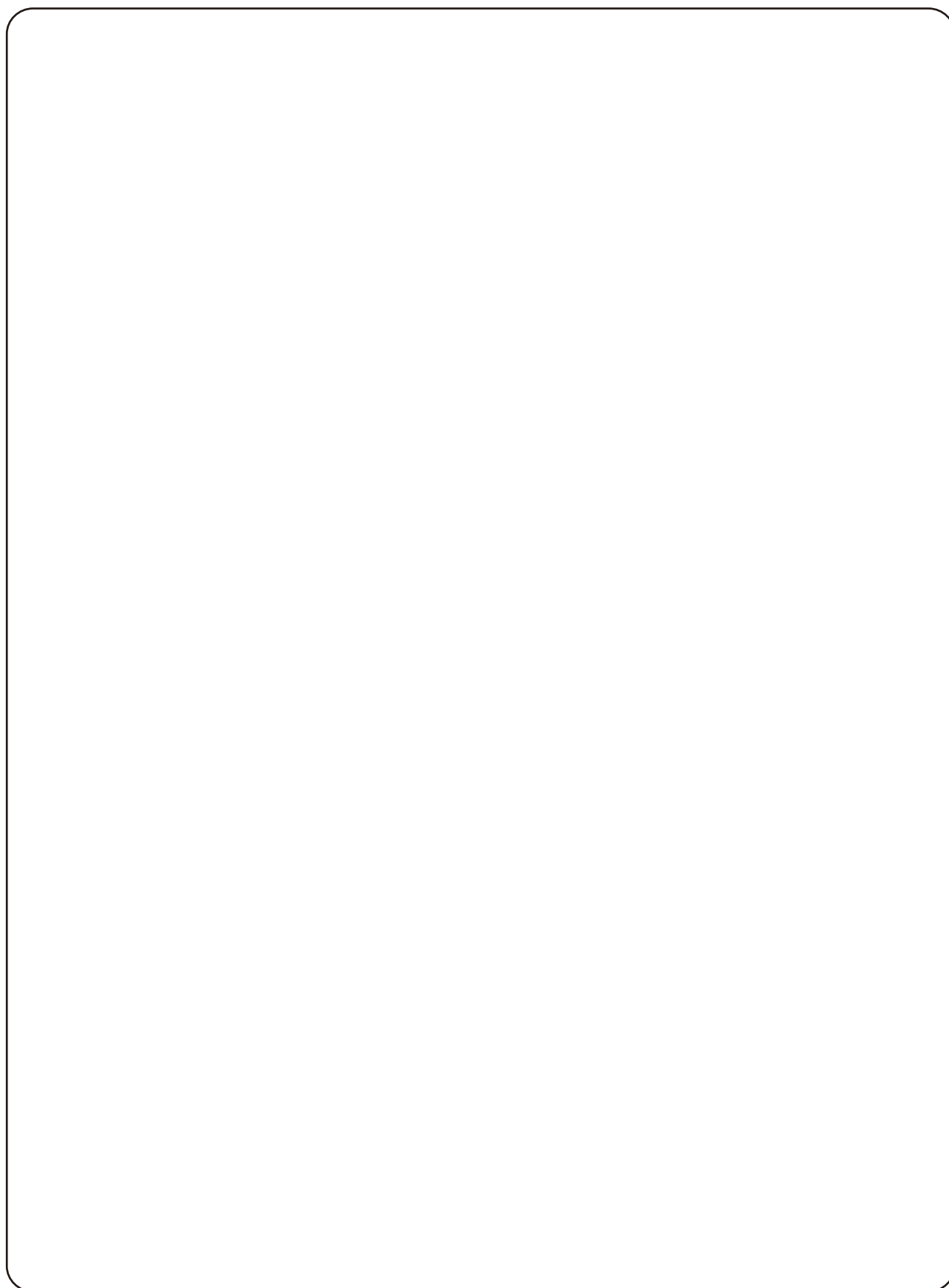
固定ボルトを締め過ぎ
ない。

*必ず所定のトルクで締付け
てください。緩みや破損の原
因となり、事故のおそれがあ
ります。



【図1-8】

乗車位置



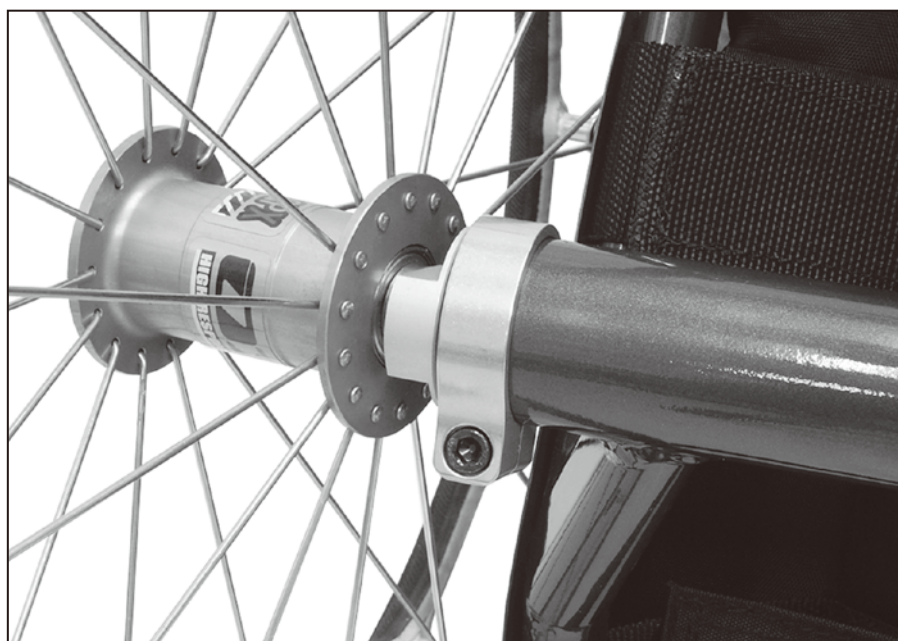
3 章 回転部

この章では、回転部に関する調整について説明しています。

メインホイールまわりの調整・点検

フロントホイールの調整・点検

その他の点検



メインホイールまわりの調整・点検〔GPX〕

＜メインホイールの外し方＞〔図 2-1〕

- 1) タイヤの空気を抜く。
- 2) タイヤがフェンダーに引っかからないように、リアハブ（メインホイール中央部）のアクスルボルトを回してホイールを外す。

⚠警告

ホイールが確実に固定されていることを確認する。

* 確実に固定されていないと、ホイールが外れ転倒、転落のおそれがあります。

＜メインホイールの取付け方＞〔図 2-1〕

- 1) タイヤの空気を抜く。
- 2) タイヤをフェンダー内に少しずつ入れながら、リアハブ（メインホイール中央部）のアクスルボルトを回して軸穴に取付け締付ける。

⚠注意

軸穴は精密加工されているので、キズをつけないように注意する。

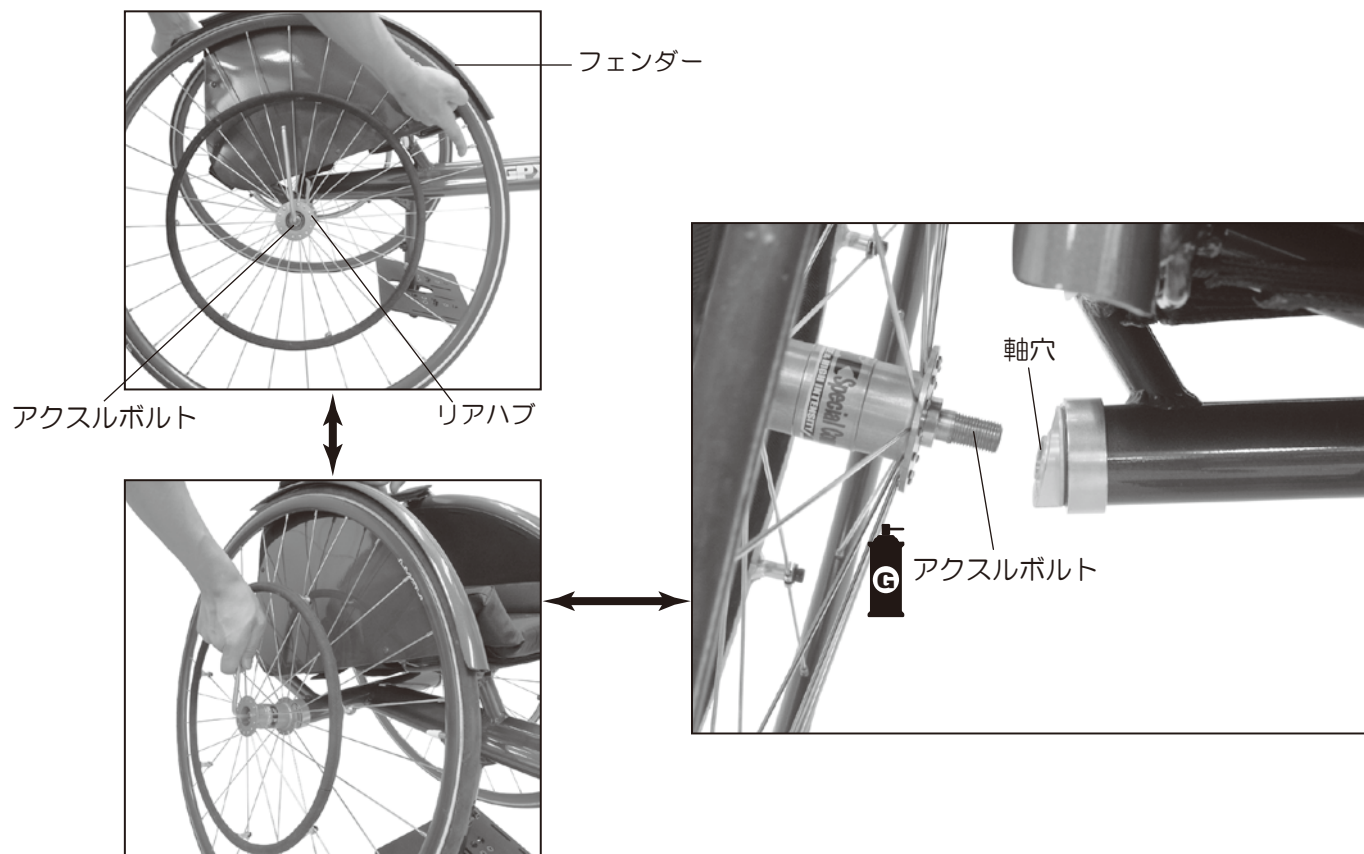
* キズが付くとアクスルボルトが入らなかったり、入りにくくなったりして危険です。

* アクスルボルトが入らなかったり、入りにくなるなどの異常がある場合は、販売店にご相談ください。

＜メインホイールの点検＞

- ホイール装着時に、アクスルボルトが確実に締まっていることを確認する。
※異常がありましたら、車いすの使用をやめ販売店にご相談ください。
- タイヤの減り具合、空気圧を見る。
※タイヤから布地が少しでも見えたら交換してください。（P.22）
※タイヤの空気圧はP.22を参照してください。

アクスルボルト締付けトルク 20～27N・m



【図2-1】

メインホイールまわりの調整・点検【GP-S】

＜ホイールの取外し＞【図 2-2】

○ホイール中心のプッシュロッドを押しながら、ホイールを手前に引く。

＜ホイールの取付け＞【図 2-2】

- 1) ホイール中心のプッシュロッドを押しながら、ホイールシャフトを軸穴に差込む。
- 2) 確実に軸穴に差込まれ、プッシュロッドが【図2-2】の「○」の状態であることを確認する。

＜ホイールの点検＞【図 2-2】

○装着時にプッシュロッドが戻らないなどの異常が無いことを確認する。

＊異常があれば使用を止めて販売店にご相談ください。

○タイヤの減り具合、空気圧を見る。

＊タイヤから布地が少しでも見えたら交換してください。

＊タイヤの空気圧はP.22を参照してください。

○固定ホイールは定期的(1 か月に 1 回程度)に増し締めする。

⚠警告

乗車中はプッシュロッドに触れない。

＊乗車中にホイールが外れ事故や転倒などのおそれがあります。

⚠警告

フランジボルトの中心からプッシュロッドが十分突き出していることを確認する。

＊確実に固定されていないとホイールが外れ事故や転倒などのおそれがあります。

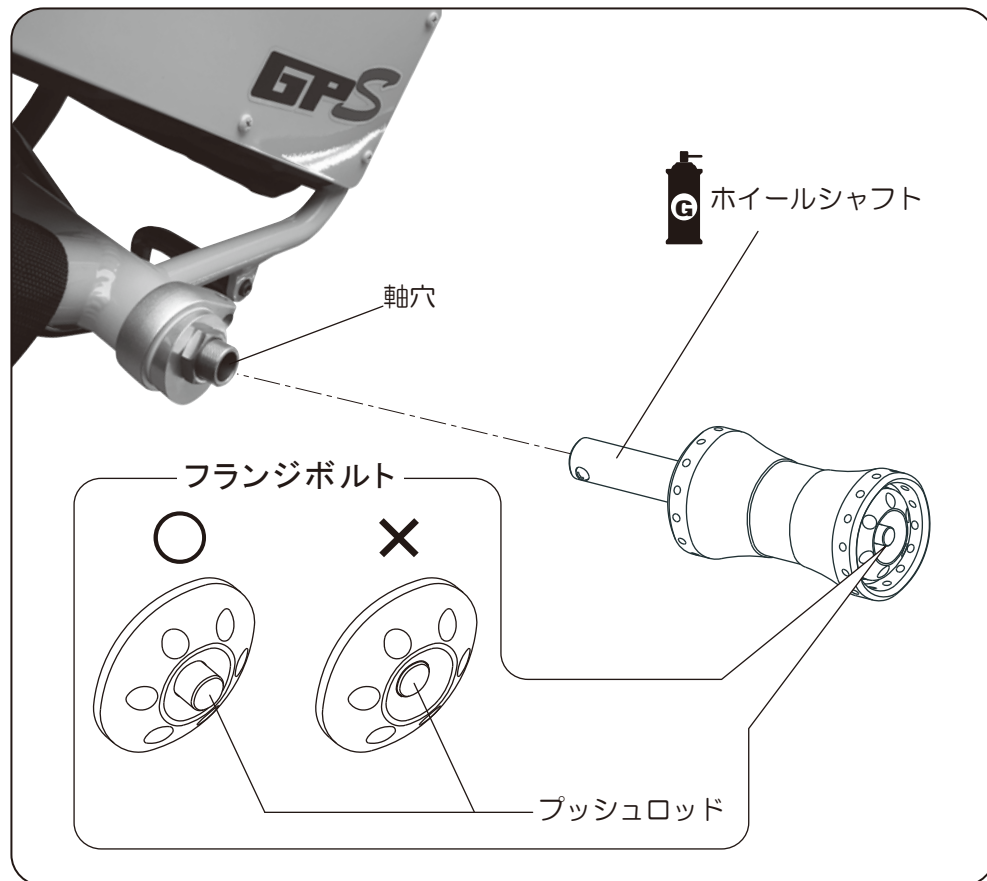
＊プッシュロッドが戻らないなどの異常がある場合は、車いすの使用を止めて販売店にご相談ください。

⚠警告

ホイールシャフトや軸穴は精密加工されているので、傷を付けない。

＊傷が付くとホイールシャフトが入らなかったり、入りにくくなったりして危険です。

＊ホイールシャフトが入らなかったり、入りにくなるなどの異常がある場合は、車いすの使用を止めて販売店にご相談ください。



【図2-2】

フロントホイールの調整・点検

＜フロントホイールの外し方＞【図 2-3】

- 1) 左右の①ボルトを外す。
- 2) フロントホイールを外す。

＜フロントホイールの取付け方＞【図 2-3】

- 1) フロントフォークの取付け位置にホイールを合わせる。
- 2) ①ボルトで左右を確実に締付ける。

＜フロントホイールの点検＞【図 2-3】

- フロントホイールを回転させ、異音、ガタ、回転不良がないか点検してください。
- タイヤに亀裂、損傷、限度を超えた摩耗がないか点検してください。
※上記のような症状が見られる時は、交換してください。
※ベアリングは定期的にスプレークリーナーなどで十分清掃し、潤滑剤などを塗布します。

⚠警告

ホイールが確実に固定されていることを確認する。

* 確実に固定されていないと、ホイールが外れ転倒、転落のおそれがあります。

⚠注意

フロントホイールの大きさは変えない。

* ブレーキやフロントフォークに不具合が生じ、事故のおそれがあります。

①ボルト締付けトルク 8N・m



【図2-3】

その他の点検

＜タイヤの点検＞

1. 亀裂、損傷、異物、溝の深さ、異常な摩耗などを点検します。
2. タイヤに異常がある場合は販売店で点検、整備を受けてください。

※タイヤ交換は、ホイール・タイヤを購入された販売店もしくはお近くの自転車販売店（ロードバイク取扱店）に依頼してください。

※多くの場合自転車販売店には、タイヤ及びリムセメントの在庫はありません。予備の用意をおすすめします。

タイヤ空気圧の目安※注1

		フロントホイール	メインホイール(GPX)	メインホイール(GP-S)
タイヤサイズ		20インチ	26・27インチ	25-559
適正空気圧	kPa	900～1200	900～1200	690
	kg/cm ²	9.0～12.0	9.0～12.0	7.0
	PSI	130～170	130～170	100

※注1：上記タイヤ空気圧は、だいたいの目安にしてください。購入したタイヤや、タイヤの取扱説明書に表示してある空気圧を守ってください。

⚠注意

○パンクしたまま使用しないでください。

○空気圧が少ないと車いすの操作が重くなり、パンクしやすくなります。

○空気圧が少なすぎると、リムからタイヤが外れるおそれがあります。

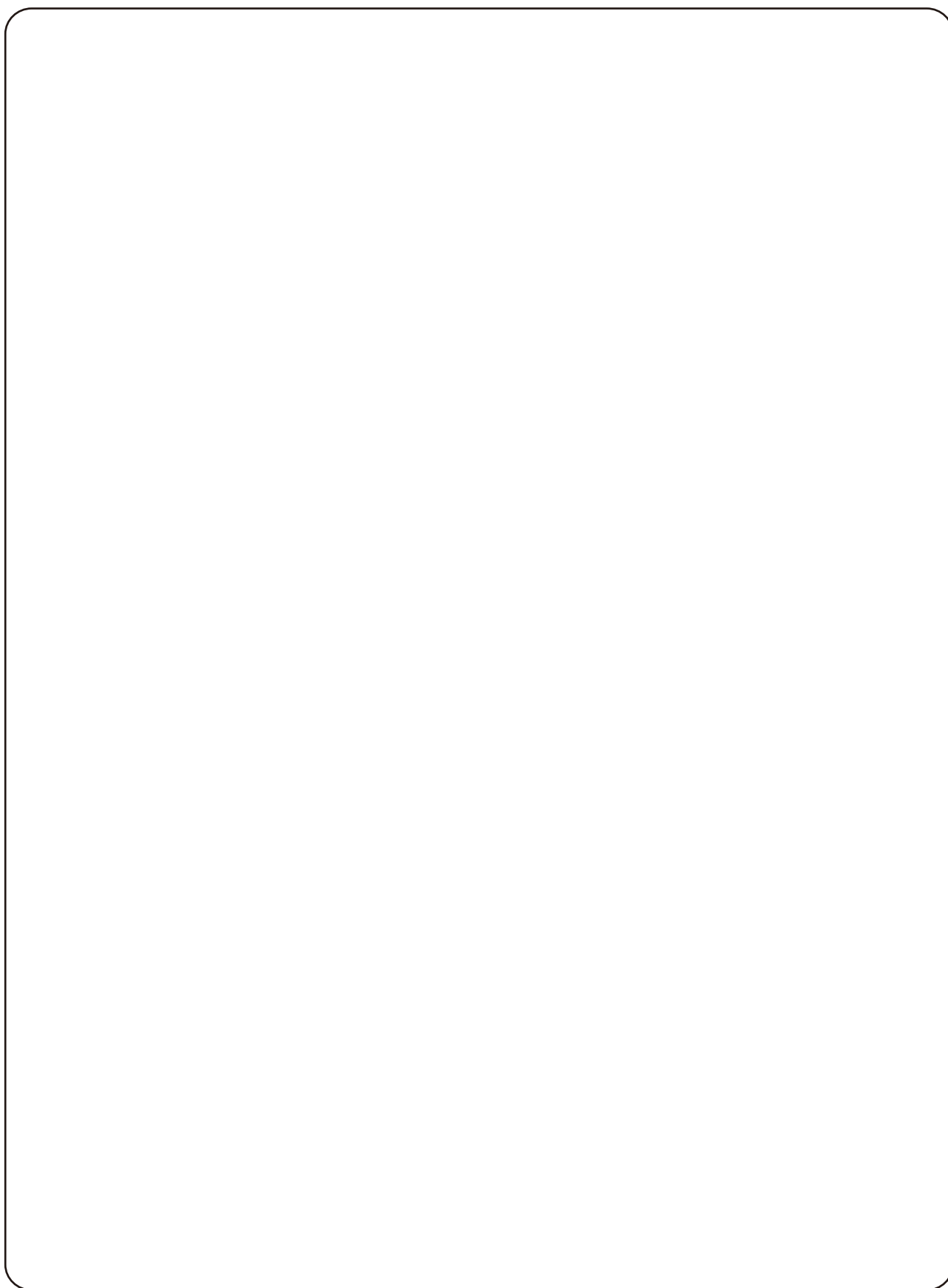
○空気圧が多すぎると気圧や温度の変化でパンクするおそれがあります。

○タイヤは、リムに合ったものを使用しないと、パンクするおそれがあります。

○左右の空気圧は同一にしてください。

＜ホイール・ハンドリムの点検＞

1. ホイール・ハンドリム
ホイール、ハンドリムの動きに異常が感じられたら点検を行い、必要に応じて清掃、注油、増し締めなどを行ってください。
2. ホイールシャフト
ホイールシャフトの動きに異常が感じられたら点検を行い、必要に応じて清掃、注油、増し締めなどを行ってください。



4 章 操舵部

この章では、操舵に関する調整について説明しています。

トラックバーのやさしい調整・点検

トラックバー及びダンパーの調整・点検

ブレーキの調整・点検

ハンドルの修正



トラックバーのやさしい調整・点検

＜トラックバーの使用方法＞【図 3-1】【図 3-2】

○トラックバーは、主にトラック競技で使います。真っ直ぐに走りたい時はトラックバーの右を、コーナーでは左を、メインフレームの方向に、アジャストボルトが「C」に接触するまで押します。

＜トラックバーの調整(直進)・点検＞【図 3-1】【図 3-2】

○工場出荷状態からの直進調整については、次の方法で調整してください。更に細かく調整する際は、P.27 を参照してください。

○次の調整は、平らな広い場所で行ってください。

- 1) トラックバーを“直進矢印”の方向に押して、アジャストボルト右を「C」に接触させる。
- 2) AとBを大体同じ間隔にする。
- 3) メインフレームに対して、フロントホイールが真っ直ぐになっていることを確認する。
- 4) 乗車して、直進できるか確認する。直進しない時は、アジャストボルト右を回して、「C」に接触させて微調整する。
- 5) 4) を繰り返して真っ直ぐ走行するまで調整する。

＜トラックバーの調整(コーナー)・点検＞【図 3-1】【図 3-2】

- 1) 乗車して、走行するコースのコーナー入り口で、アジャストボルト左が、「C」に接触するまで“コーナー矢印”の方向にトラックバーを押す。
- 2) コーナーR(曲がり具合)に合うようにアジャストボルト左を回して、「C」に接触させて微調整する。
- 3) 1) 2) を繰り返しコーナーRに合うように調整する。

⚠警告

トラックバーを使用する際は、根元をにぎらない。

* 指などをはさみ、事故やケガのおそれがあります。アジャストボルトから離れた箇所をにぎってください。

⚠警告

アジャストボルトによる蛇角調整は、バネが遊ばない範囲内で調整する。

* アジャストボルトが外れ、事故のおそれがあります。バネが常時押されている状態にしてください。

⚠注意

トラックバーに体重をかけない。

* トラックバーが曲がったり折れたりして、事故や転倒のおそれがあります。

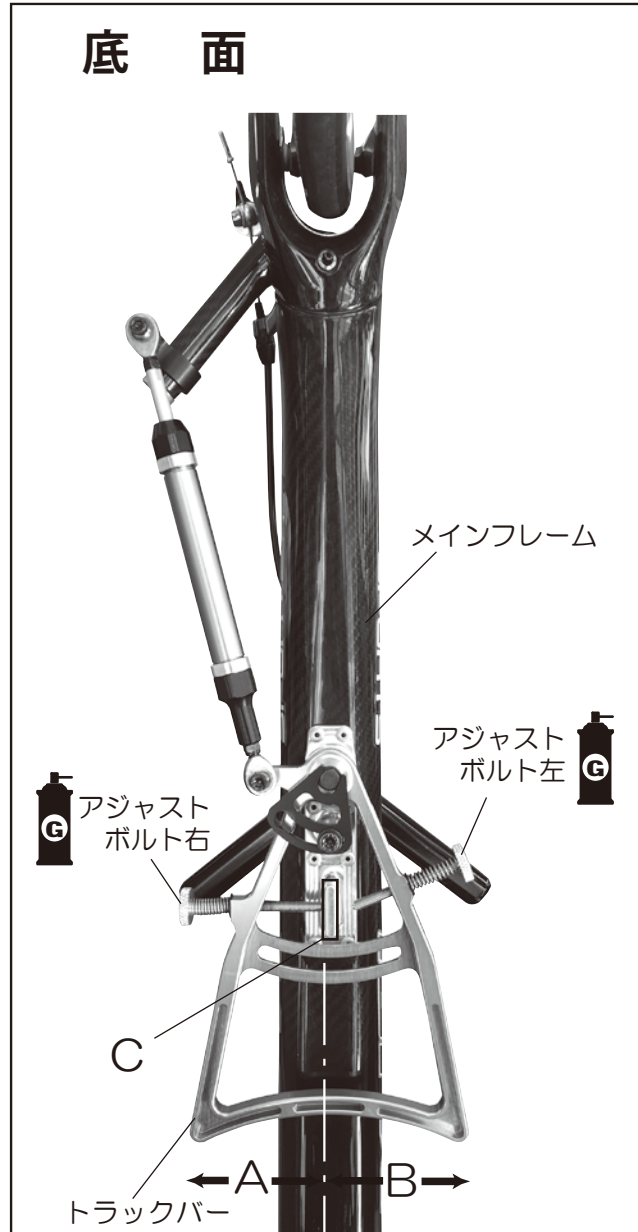
上 面

メインパイプに対してフロントホイールを真っ直ぐにする。



【図3-1】

底 面



【図3-2】

トラックバー及びダンパーの調整・点検

＜トラックバーの調整・点検＞【図 3-3】【図 3-4】

- 1) ①ボルトを外し、セットプレートを外す。
- 2) ハンドルを切ってもトラックバーが動かないところまで、六角ボルトを回して調整する。（強く締めすぎないように注意してください）
- 3) セットプレートの角度を振り、六角ボルトに合わせて①ボルトで締付ける。
- 4) トラックバーが「A」＝「B」になるようにアジャストボルト右を「C」に接触させる。

⚠警告

トラックバーを使用する際は、根元をにぎらない。

* 指などをはさみ、事故やケガのおそれがあります。アジャストボルトから離れた箇所をにぎってください。

＜ダンパー(直進)の調整・点検＞【図 3-3】【図 3-4】【図 3-5】

- 1) ＜トラックバーの調整・点検＞を行う。
- 2) トラックバー側の②ナットを緩める。
- 3) トラックバー側の「D」を10mm以内で、③を回してメインフレームとフロントホイールが真っ直ぐになるように調整する。
※上記の作業を行って「D」の間隔が10mmでも調整しきれない場合は、次の作業を行った後、2)、3)、4)を行ってください。
 - 1、トラックバー側の「D」を10mmにして、②ナットを締める。
 - 2、ダンパーステア側の②ナットを緩める。
 - 3、④を回して、ダンパーステア側の「D」を10mm以内で調整する。
 - 4、ダンパーステア側の②ナットを締める。
 - 5、2)に戻り、再度調整する。
- 4) 前後の⑤の可動範囲を妨げない位置で、トラックバー側の②ナットを締める。

⚠警告

アジャストボルトによる蛇角調整は、バネが遊ばない範囲内で調整する。

* アジャストボルトが外れ、事故のおそれがあります。バネが常時押されている状態にしてください。

⚠警告

「D」の間隔は必ず10mm以内の範囲で調整する。

* ⑤(ロッドエンド)が外れ事故のおそれがあります。

＜ダンパーのガタ修正＞【図 3-3】

- 1) ⑥と⑦ナットにスパナを掛け、⑦ナットを回して緩める。
- 2) ⑥を一度緩めてから、ハンドルを左右に振りながら再度手で⑥を締め直し、ガタが無くなる場所で⑥と⑦ナットにスパナを掛け、⑦ナットを回して締める。

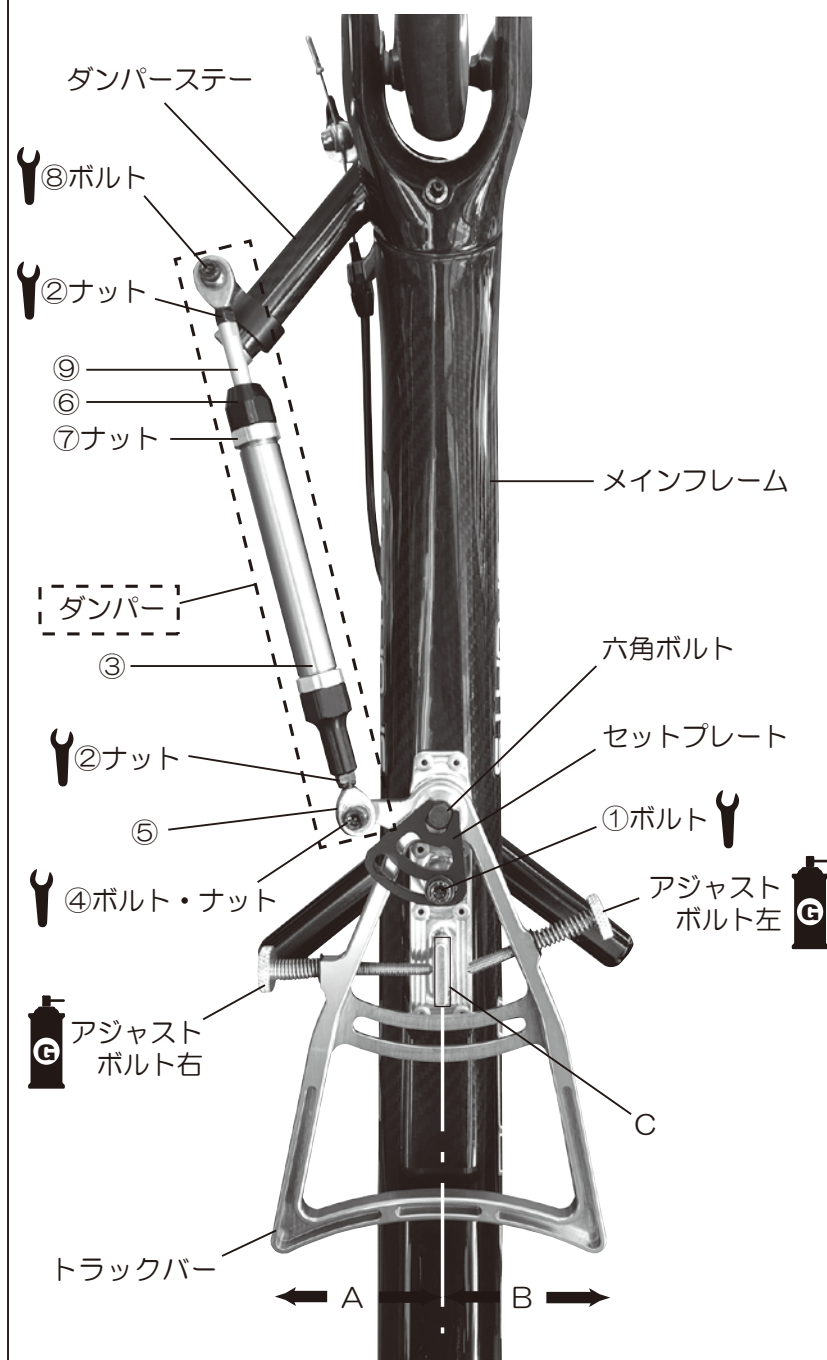
①ボルト締付けトルク	8N・m
②ナット締付けトルク	6N・m
④ボルト・ナット締付けトルク	6N・m
⑦ナット締付けトルク	8N・m
⑧ボルト締付けトルク	6N・m

⚠注意

トラックバーに体重をかけない。

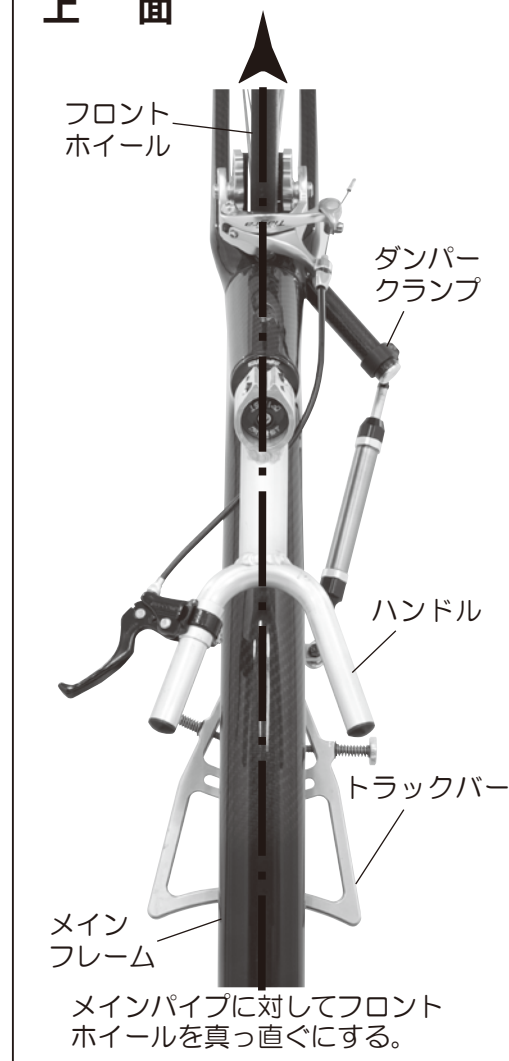
* トラックバーが曲がったり折れたりして、事故や転倒のおそれがあります。

底 面

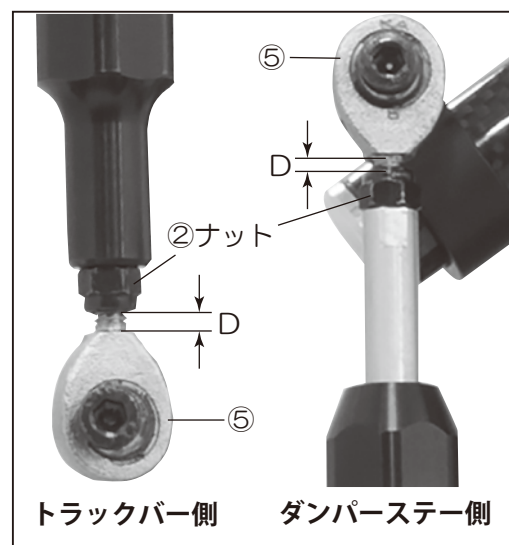


【図3-3】

上 面



【図3-4】



【図3-5】

ブレーキの調整・点検

＜ブレーキの微調整＞【図 3-6】

○アジャスターを回して、ブレーキシューとリムとの間隔を調整します。ブレーキシューとリムとの間隔は、3mm程度に調整してください。尚、「A」の突出しは、必ず2～8mmの範囲で調整してください。

＜ブレーキの調整＞【図 3-6】【図 3-8】【図 3-9】

○ブレーキワイヤーが伸びてきた際、＜ブレーキの微調整＞を行い「A」の間隔が2mm以下になる場合や、ブレーキレバーとハンドルバーに指をはさむ場合は、次の調整を行います。

- 1) アジャスターを回して、「A」の突出しを増やす。
- 2) ②ボルトを緩める。
- 3) 左右のブレーキシューをにぎり、ブレーキシューをリムに接触させながら、ブレーキワイヤー先端を矢印の方向に引く。
- 4) ワイヤーを「溝」に合わせ、②ボルトを締める。
- 5) ブレーキシューから手を離し、リムとの間隔が3mm程度か確認し、必要に応じて＜ブレーキの微調整＞を行う。
- 6) ブレーキレバーをにぎり〔押し下げ〕、ブレーキレバーに指をはさまない〔ブレーキレバーがフレームに当たらない〕か確認する。〔 〕内はエアロブレーキの場合。

＜ブレーキシューの調整＞【図 3-6】【図 3-7】【図 3-8】

○ブレーキシューが、リムの内側（スポーク側）や、タイヤに当たる場合は、次の調整を行います。

- 1) 左右の③ボルトを緩める。
- 2) 左右のブレーキシューを最適な位置（リムの端（タイヤ側）から3mm程度下に接触する）に合わせる。
- 3) 左右の③ボルトを締める。
- 4) ブレーキレバーをにぎり、ブレーキシューがタイヤ、スポークに当たっていないか確認する。
- 5) 必要に応じて＜ブレーキの微調整＞を行う。

＜ブレーキの片効き修正＞【図3-7】

○ブレーキをかけていない時に、ブレーキシューとリムとの間隔が、左右で大きく異なる場合は、①を回して調整します。

⚠警告

「A」の突出しは必ず2～8mmの範囲で調整する。

*アジャスターが外れ、ブレーキがかけられず、事故のおそれがあります。

⚠警告

使用前にブレーキワイヤーのほつれ、傷み等が無い点検する。

*ブレーキワイヤーが切れて、事故のおそれがあります。図中の「点検」箇所は、特に切れやすい場所です。こまめに点検してください。

⚠警告

ボルト、ナット、ネジ類の締め忘れが無い点、調整後に必ず確認する。

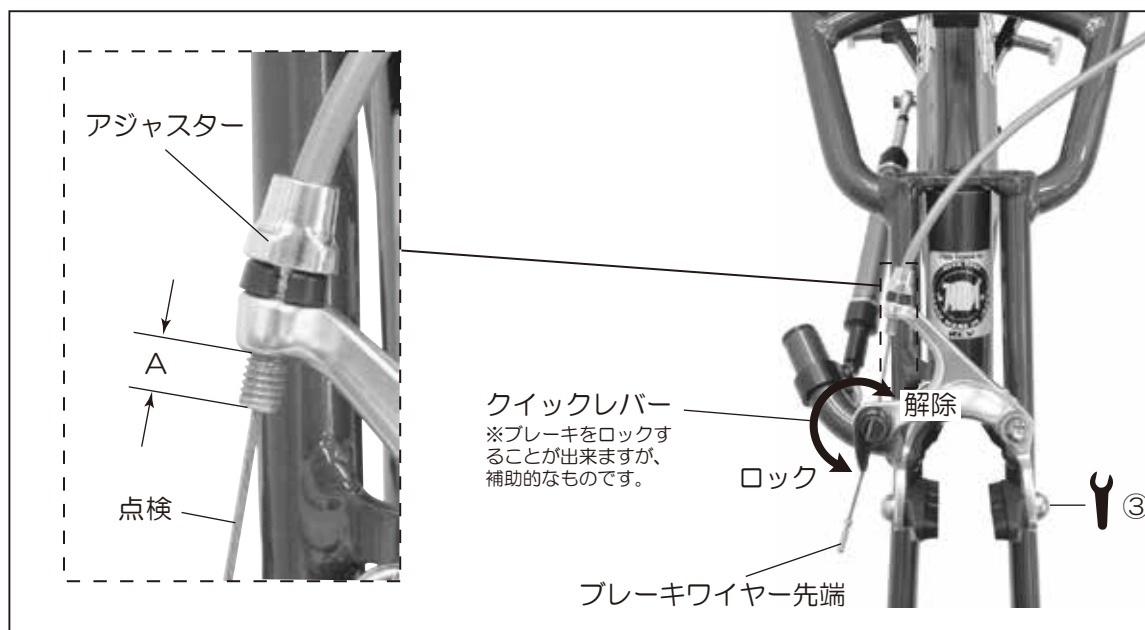
*ブレーキがかけられず、事故のおそれがあります。

⚠注意

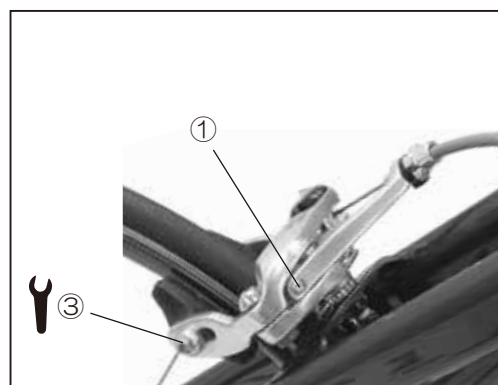
ブレーキシューの位置は、上げ過ぎ・下げ過ぎに注意する。

*ブレーキシューがスポークやタイヤに当たりホイールがロックするおそれがあります。

②ボルト締付けトルク	6N・m
③ボルト締付けトルク	6N・m
④ボルト締付けトルク	8N・m



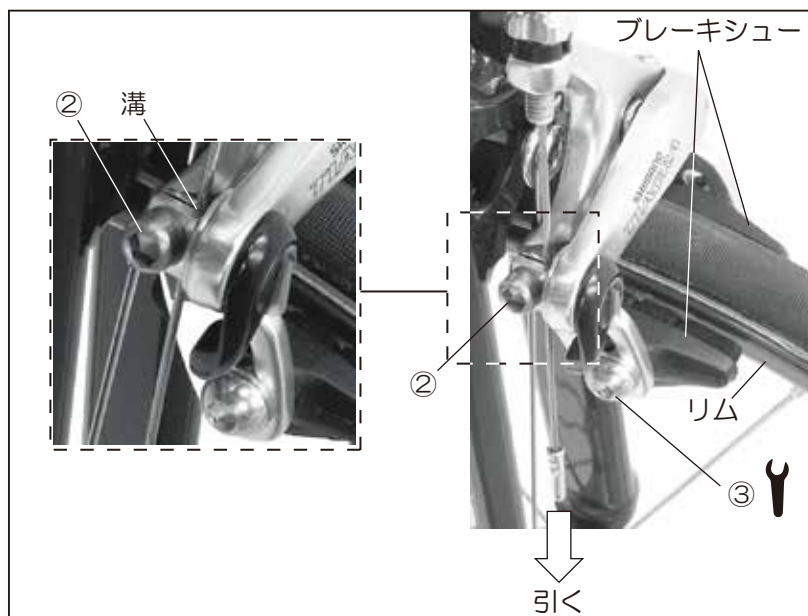
【図3-6】



【図3-7】



【図3-8】



【図3-9】



【図3-10】

ハンドルの修正

＜ガタ修正（カーボンフォーク装着車）＞【図3-11】

○構造上、ハンドルにガタが出てくることがあります。次の方法で修正を行ってください。

※GP-S / GPX-LR / GPX-SR（オプションのカーボンフォーク装着車を除く）については、下記修正は行いません。

- 1) 市販の六角レンチ（4mm）で①ボルトを緩める。
- 2) ガタがなくなるまで②ボルトを徐々に締付ける。
※②ボルトは、ハンドルのガタを修正するためだけのものです。あまり締め過ぎるとハンドルが重くなったり、フロントフォークが破損するおそれがあります。徐々に締め付け、ガタがなくなったところで止めてください。
- 3) ハンドルをフロントホイールに対して真っ直ぐにし、①ボルトを交互に、均等に締付ける。
※片側を締め終えてから、もう一方を締めると、トルクが不均等になってボルトが緩む原因となります。必ず交互に締付けてください。
- 4) ブレーキを掛けた状態で、前後に揺さぶり、ガタがなくなったかを確認し、ハンドルがきちんと動作するかを確認する。

①ボルト締め付けトルク 4N・m

警告

ガタがある状態で走行しない。

※フロントフォークの破損や、事故のおそれがあります。

警告

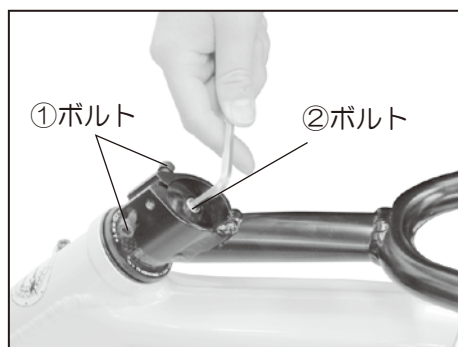
②ボルトは締め過ぎない。

※ハンドルが回らなくなったり、フロントフォークが破損するおそれがあります。

警告

①ボルトは交互に、均等に締付ける。

※片側づつ締めていくと、緩みの原因となり、事故のおそれがあります。



【図3-11】

オプション・アクセサリ アフターサービス

この章では、オプション・アクセサリとアフターサービスに関して説明しています。

フットボードの調整・点検

その他の着脱・点検

トーアングルゲージを使った点検・修正

お客様ご相談窓口のご案内



フットボードの調整・点検

＜フットボードの調整＞【図 4-1】

- 1) フットベルトの、左右の面ファスナーを剥がす。
- 2) 最適な位置にフットベルトの長さを合わせる。
- 3) フットベルトの、左右の面ファスナーを貼り付ける。

＜フットボードの着脱＞【図 4-1】

- 1) フットベルトの、左右の面ファスナーを剥がす。
- 2) 左右の「A」からフットベルトを抜き取る。
* 取付けの際は、逆の手順で取付けます。必ずパイプに巻いてから「A」に通してください。「A」に過重がかかると破損する恐れがあります。



【図4-1】

⚠警告

フットボードに乗ったり、立ったりしない。

* 転落や転倒などのおそれがあります。また、車いすが損傷します。

⚠警告

麻痺部位と車いすの固い部分（フレームなど）が接触しないように調整する。

* 褥瘡などになるおそれがあります。

* 調整後は必ず、麻痺部位と車いすの固い部分（フレームなど）が、接触していないことを確認しましょう。

⚠注意

面ファスナーは確実に貼り付ける。

* 固定力が低下して、調整状態が変わります。

⚠注意

面ファスナーに付着した糸くずなどは取除く。

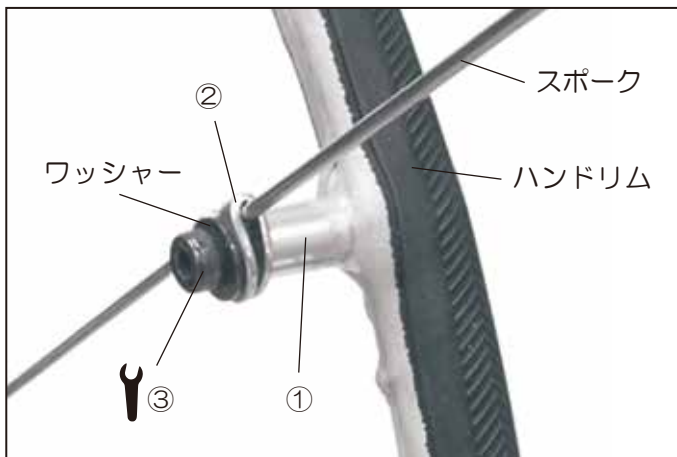
* 固定力が低下して、調整状態が変わります。

その他の着脱・点検

＜ハンドリムの着脱方法＞【図 4-2】

○取外す際は、ハンドリムの全ての①から、③ボルト、ワッシャーを外します。
取付ける際は、①の取付穴と②を図のように合わせ、ワッシャー、③ボルトで
全て取付けます。

③ボルト締付けトルク 4N・m



【図4-2】

⚠警告

使用前に、③ボルト及びスポークが緩んでいないか確認する。

* 走行中に外れ事故のおそれがあります。

＜ウイリーバーの着脱方法＞【図 4-3】

【取外し】全て(3ヶ所)の固定ボルトを外します。
【取付け】全て(3ヶ所)の固定ボルトで締付けます。

③ボルト締付けトルク 8N・m



【図4-3】

⚠警告

使用前に、固定ボルトが緩んでいないか確認する。

* 走行中に外れ事故のおそれがあります。

トーアングルゲージを使った点検・修正

＜トー角の点検＞【図 4-4】

- 1) ホイールを固定して、トーアングルゲージを【図4-4】のように置く。
- 2) トーアングルゲージと左右のホイールの前後に隙間が無いか確認する。
隙間がある場合は、＜トー角の修正＞を行う。

＜トー角の修正＞【図 4-4】【図 4-5】

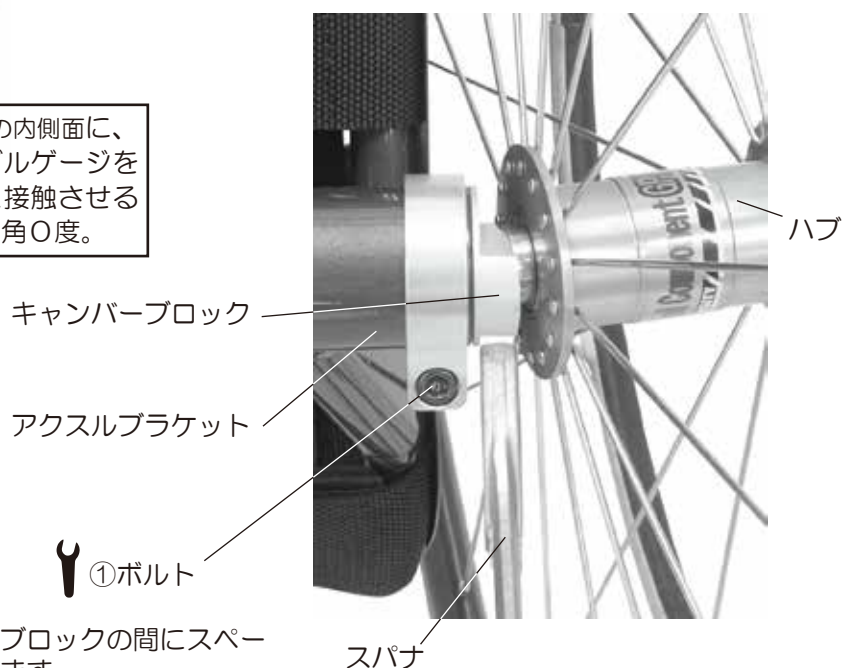
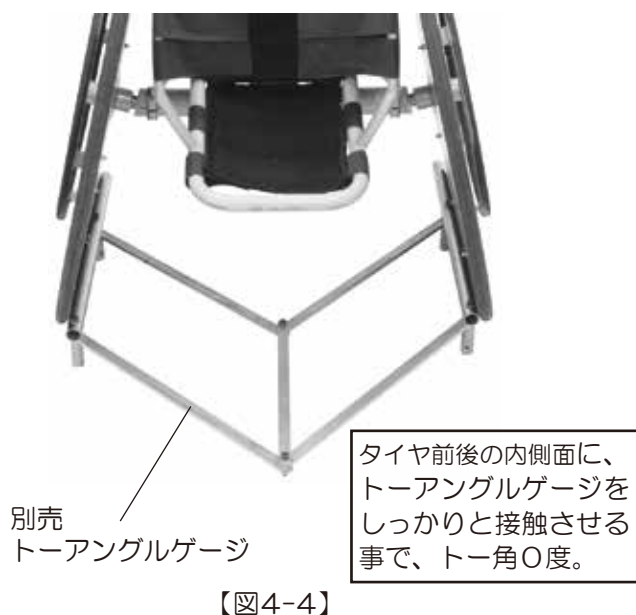
- 1) 左右の①ボルトを緩める。
- 2) スパナでキャンバーブロックを動かし、【図4-4】のような方法でトー角を0度にする。
- 3) アクスルブラケットに、キャンバーブロックが最後まで入っていることを確認する。
- 4) 左右の①ボルトを確実に締付ける。

①ボルト締付けトルク 15N・m

⚠注意

アクスルブラケットとスペーサー（※注）、キャンバーブロックとスペーサーの間に隙間を作らない。

*キャンバーブロックが抜け、事故や転倒、転落のおそれがあります。



※注：アクスルブラケットとキャンバーブロックの間にスペーサーが付属されている車両もあります。

お客様ご相談窓口のご案内

《お客様ご相談窓口》

お買い上げいただきました当社の製品やサービスについてご質問、ご意見、ご要望などがございましたらご遠慮なくお寄せください。また、各種オプション・アクセサリーに関するお問い合わせもご遠慮なくお寄せください。

株式会社オーエックスエンジニアリング

営業部 お客様ご相談窓口

TEL 043-228-0777 FAX 043-228-3334

《アフターサービスの実施》

お買い上げいただきましたお取扱店が点検、修理をはじめ、アフターサービスのご相談などをお受けいたします。

当社への部品のお問い合わせや、故障箇所をご説明いただくときなどは次の方法でお問い合わせください。

本書をお手元に用意していただき、巻末に記載されている取扱説明書NO.を確認して、「GPX〇〇年〇月〇版の〇〇ページの、図〇-〇の、〇〇〇」とご説明ください。

例) 14ページの、図1-5の「ヒップレザー」

例) 21ページの、図2-3の「①ボルト」

お問い合わせ先

株式会社 オーエックスエンジニアリング

営業部 お客様ご相談窓口

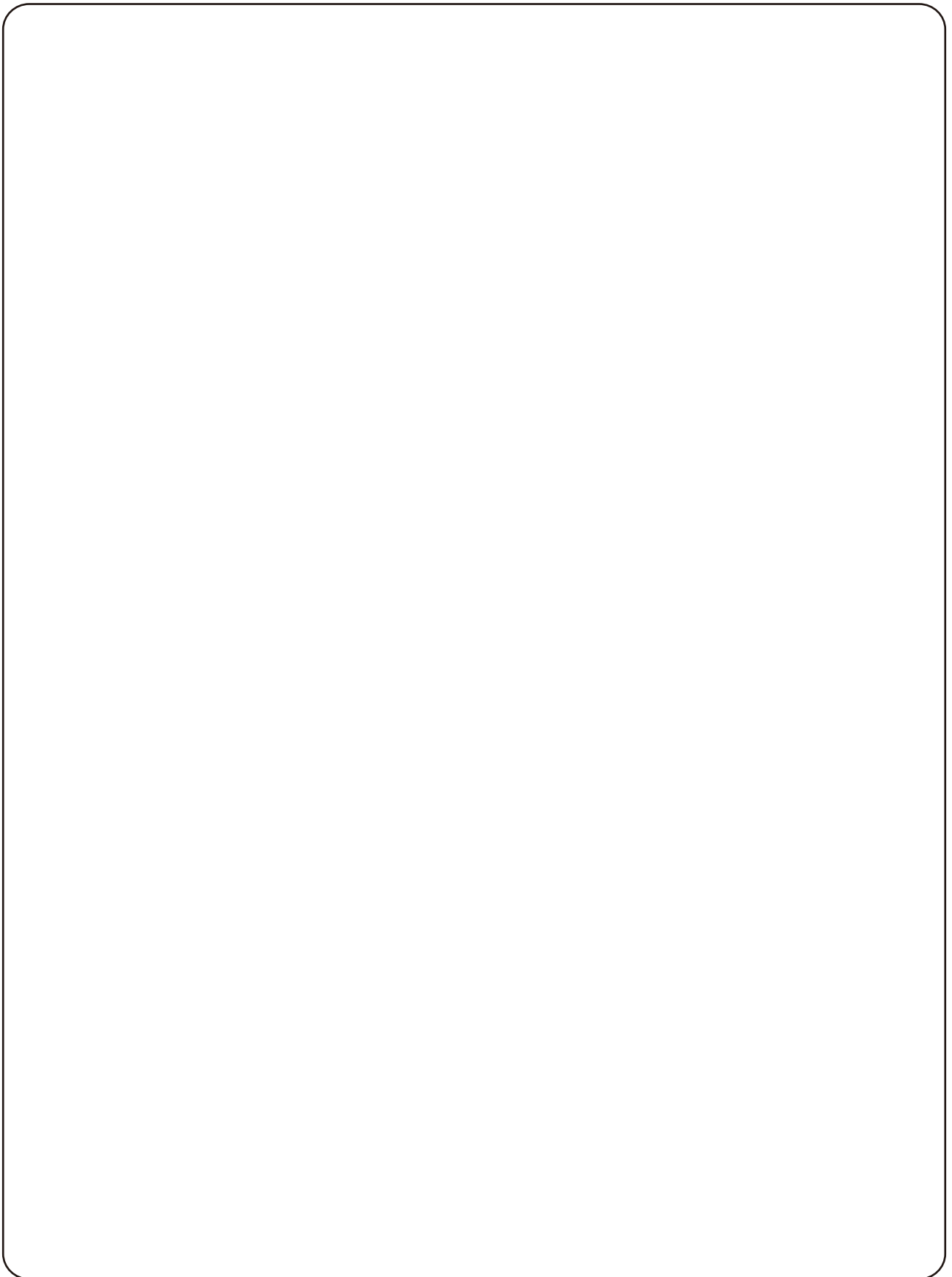
〒265-0043 千葉県若葉区中田町2186-1

TEL 043-228-0777

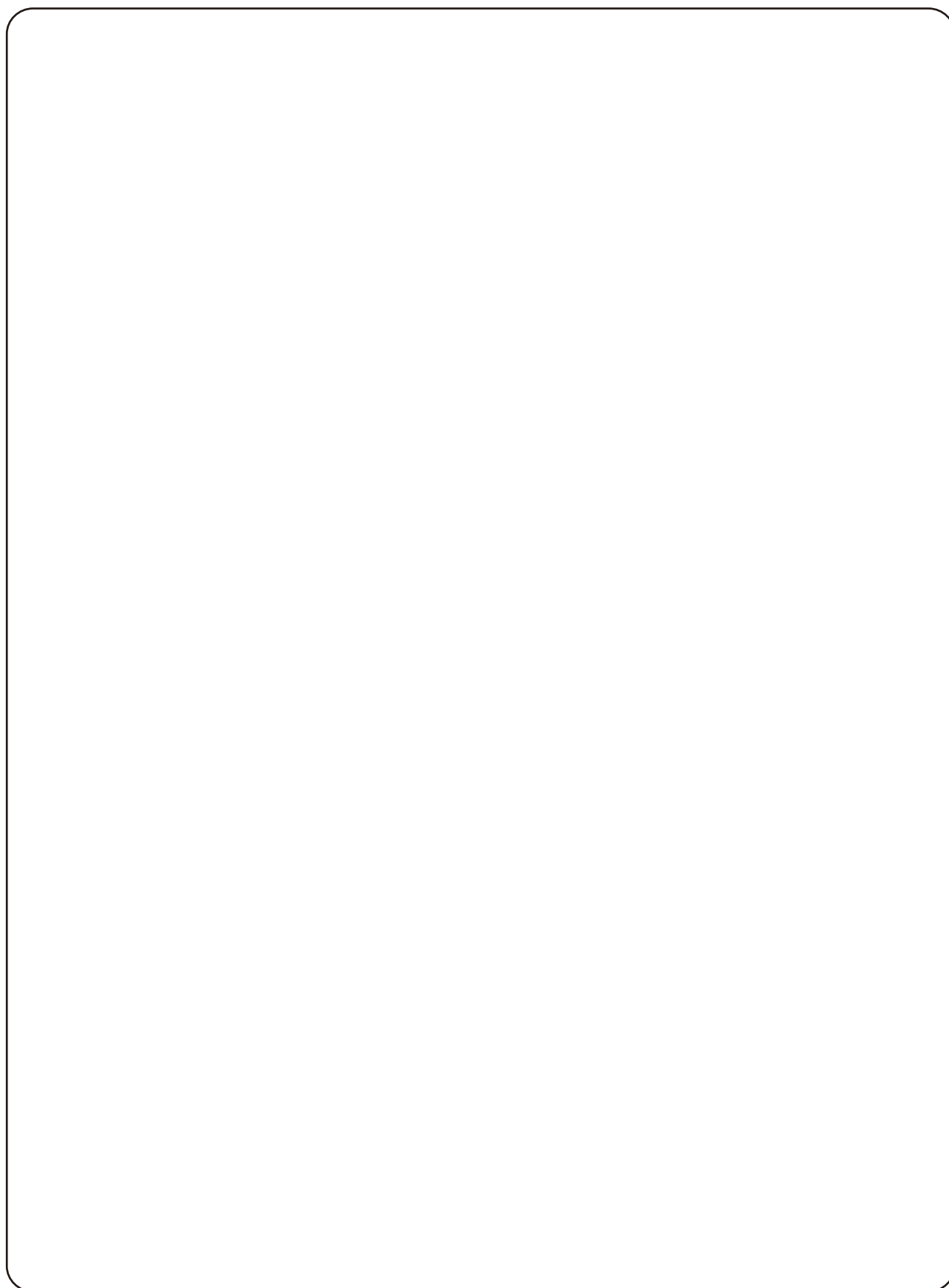
FAX 043-228-3334

《パンクでお急ぎの場合には》

お近くの自転車販売店に修理を依頼してください。(P.19参照)

A large, empty rectangular box with rounded corners, intended for writing a memo. The box is white with a thin black border and occupies the majority of the page area below the header and above the footer.

MEMO



販売元
株式会社オーエックスエンジニアリング

〒265-0043 千葉県若葉区中田町2186-1

URL www.oxgroup.co.jp



不法廃棄はしないでください。